

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバが見られました

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称ハナ)

ラーバは野辺地沖で11月8日に0.8個体/m³、11月18日に奥内沖で4.2個体/m³、久栗坂沖で0.6個体/m³見られました (図2)。

(2) サンカクフジツボ

ラーバは奥内沖で11月18日に0.8個体/m³見られました (図3)。

(3) マボヤ

ラーバは奥内沖で11月12日に0.8個体/m³、11月18日に奥内沖で20.0個体/m³、久栗坂沖で0.6個体/m³、川内沖で3.1個体/m³見られ、卵は11月18日に奥内沖で1.7個体/m³、川内沖で0.8個体/m³見られました (図4)。

(4) ムラサキガイ

ラーバは野辺地沖で11月8日に16.4個体/m³、11月16日に7.8個体/m³、11月12日に奥内沖で4.2個体/m³、久栗坂沖で4.4個体/m³、11月18日に奥内沖で9.2個体/m³、久栗坂沖で16.1個体/m³、川内沖で21.1個体/m³見られました。

(5) その他

アミクサの小枝は11月18日に奥内沖で0.8個体/m³見られましたが、キヌマトイガイのラーバ、オベリア類のクラゲは見られていません。

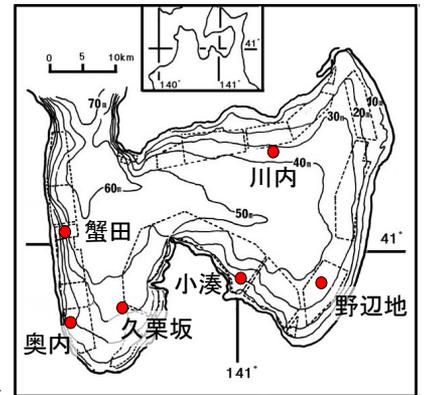


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

| 調査地点 | 調査月日 | ユウレイボヤ | サラボヤ | サンカクフジツボ | マボヤ | | キヌマトイガイ | ムラサキガイ | オベリア類 | | アミクサ小枝 |
|------|----------|--------|------|----------|------|-----|---------|--------|-------|-----|--------|
| | | | | | ラーバ | 卵 | | | クラゲ | 小枝 | |
| 奥内沖 | R2.11.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | R2.11.12 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 4.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | R2.11.18 | 4.2 | 5.0 | 0.8 | 20.0 | 1.7 | 0.0 | 9.2 | 0.0 | 0.0 | 0.8 |
| 久栗坂沖 | R2.11.12 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | R2.11.18 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 16.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 野辺地沖 | R2.11.8 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 16.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | R2.11.16 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 川内沖 | R2.11.18 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 0.8 | 0.0 | 21.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20℃以下に低下すると産卵しますが、現在、陸奥湾内の中層水温は13～16℃台です。

未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバの出現数が増加する可能性があるので、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているため、施設を沈めすぎないようにしましょう。

サンカクフジツボの付着直前のラーバがわずかに見られますが、付着のピークは過ぎています。

マボヤのラーバが見られてきたので、今後付着が進むものと考えられます。

ムラサキガイのラーバは少し見られますが、これまでの調査で秋から冬生れのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

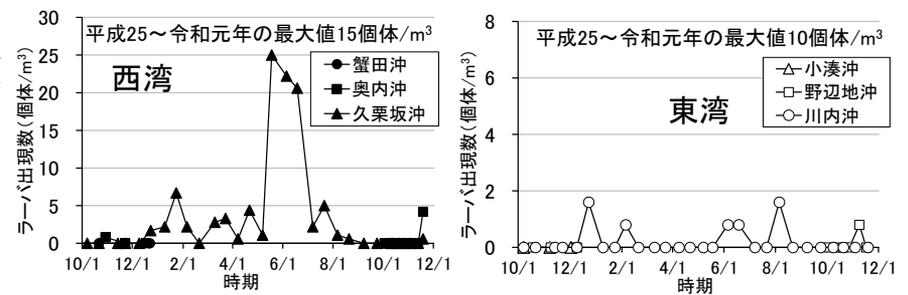


図2 ムラサキガイの出現数の推移 (令和元年10月～令和2年11月)

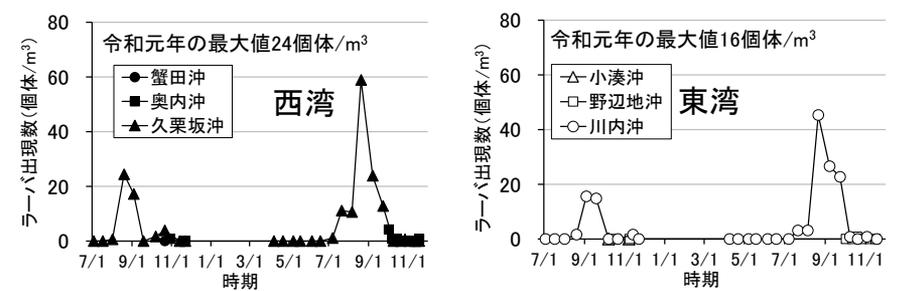


図3 サンカクフジツボの出現数の推移 (令和元年7月～令和2年11月)

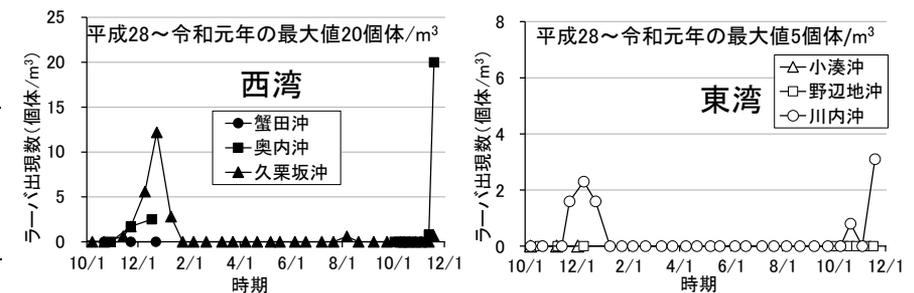


図4 マボヤの出現数の推移 (令和元年10月～令和2年11月)

